

淡路島を舞台に命の重みを伝える絵本 『せきれい丸』刊行

くもん出版（代表取締役社長 志村直人）は、小学校中学年～一般向けの絵本『せきれい丸』（作：たじま ゆきひこ、きどうち よしみ）を、2020 年 11 月 20 日に刊行致します。

終戦間もない 1945 年 12 月 9 日、淡路島と明石をむすぶ連絡船せきれい丸が、定員の 3 倍の乗客を乗せたことで沈没し、304 名の死者行方不明者を出すという事故が起きました。本書は、事故の生存者に取材しながらあらたに創作された、一人の少年の成長を描いた絵本です。

事故から 75 年、そして終戦 75 年の節目を迎えるいま、命の重み、悲しみを乗り越えて生きる力を描いた本書を、ぜひご一読ください。

～あらすじ～

淡路島に生まれ育ったひろしは、戦争で父を失う。戦争が終わった年の冬、親せきに食べ物を運ぶため、淡路島と明石をつなぐせきれい丸に乗った。しかし、船はあっけなく沈没してしまう。同じ船に乗っていた親友のりゅうたの父親に偶然助けられたが、りゅうたは助からなかった。

ひろしは、漁師であるりゅうたの家族を手伝うなかで、淡路島の海と向き合い、生きることへの力強い思いをとりもどしていく……。



戦後の混乱が生んだ海難事故を、一人の少年の物語に

大阪府出身の田島征彦さんは、2001 年の移住以来、淡路島を創作拠点として絵本を発表しつづけています。島で生きる自閉症の少年に取材した 2014 年の『ふしぎなともだち』では第 20 回日本絵本賞大賞を受賞。続く 2017 年の『のら犬ボン』では島の捨て犬問題を鋭く描きました。今回は、淡路島出身の作家 木戸内福美さんとタッグを組み、戦後の混乱に乗じて大きく取り上げられることのないまま、人々の心にしまわれてきた事故を、少年の成長物語へと昇華させました。型

染の技法で染め上げられた絵が、戦争の悲しみと、淡路島の海の美しさを対比させ大胆に描き出しています。

神戸・京都・高槻にて『せきれい丸』原画展を開催予定

■2020 年 12 月 1 日（火）～13 日（日）

@ギャラリーヴィー

〒650-0022 神戸市中央区元町通 3-2-15

セントラルビル元町 5F Tel. 078-332-5808

■2021 年 3 月 16 日（火）～28 日（日）

@ギャラリーヒルゲート

〒604-8081 京都府京都市中京区寺町通

三条上ル天性寺前町 5 3 5 Tel. 075-231-3702

■2021 年 6 月 4 日（金）～13 日（日）

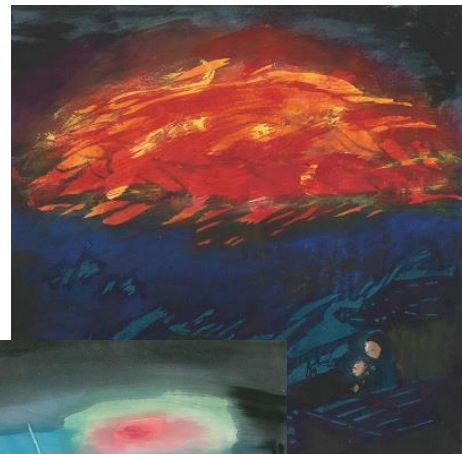
@ギャラリーアートデアート・ビュー

〒569-0802 大阪府高槻市北園町 13-30

Tel. 072-685-0466

※変更の可能性がございます。

詳細は各ギャラリーまでお問い合わせください



【書誌情報】

『せきれい丸』

ISBN978-4-7743-3193-5

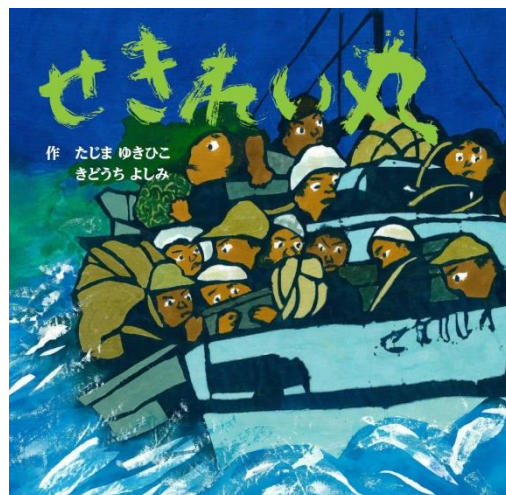
【対象】小学校中学年から

【体裁】B4変型判・40ページ

【発売】2020年11月20日

【定価】本体1,600円＋税

【発行】くもん出版



取材等のお問い合わせは、下記までお願い致します。

株式会社 くもん出版 （広報担当：内田昇）

〒108-8617 東京都港区高輪 4-10-18 京急第1ビル 13F

Email : kouhou@kumonshuppan.com

くもん出版サイト ⇒ <https://www.kumonshuppan.com/>